

特253

81

昭和三年十月

日本最初ノ取引所立法

研究報告第一號

1156



始



今回當取引所々員有志の間に於て時々刊行物を頒ち又は講演會を開き取引所に關係ある事項の研究並之が改善向上に關する知識を汎く求めることに致しました。右は所員の爲めに圖られた一計畫に過ぎないのでありますが之を通じて將來幾分でも證券取引市場に寄與することが出来るならば望外の幸に存じます。

先づ其第一歩として去る八月十五日創立五十周年開業記念日を期して記念講演會を開き上島理事長の御講演を願ひました。今や多難の五十年を送つて希望に満ちた新時代に一步を履み入れた此際生れ出づる研究冊子の創刊號としてはこの記念講演筆記を以てすることが最も適切であり且意義深きものも存じまして之を掲げることに致しました。各位幸に諒みせられんことを願ひます。

昭和三年十月

幹事

# 研究報告 第一號

## 日本最初ノ取引所立法

上 島 益 三 郎



本日ノ我大阪株式取引所開業記念日ニ因ミ日本最初ノ株式取引所立法ノ研究ヲ聊カ簡單ニ御話シマス、抑モ株式取引所ハ取引所ノ一種デアツテ、取引所ノ内ニハ米穀ノ取引所モアレバ綿糸ノ取引所モアル、又タ砂糖ヤ大豆ノ取引所モアル。然ラバ明治初年ノ立法者ハ取引所ヲ如何ニ見テ居タカト云フニ現今ノ法律ハ之ニ付テ何等ノ説明モ解釋モ與ヘズ其判斷ヲ全ク社會一般ノ經濟的通念ニ任カセテ居リマスガ日本第二回ノ取引所法タル明治十一年太政官布告第八號株式取引所條例第一條ニハ

株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ

株式取引所  
ノ概念

トアツテ立派ニ株式取引所トハドシナモノカト云フコトヲ解説シテ居リマス。此條例ハ思フニ佛國商法第七十一條ニ基キシモノデ、同條ニハ

取引所トハ政府ノ許可ニ成レル商人、船長、株式仲買人及仲立人ノ集會所ナリトアリマス。此等日佛ノ條文ハ理論上ニハ頗ル無意味ナル説明ノヤウデアリマスケレドモ元來法律ハ法學生徒ヤ法律研究者ノ爲メニ拵エラレルノデハナク、廣ク國民一般ニ社會的生活規則ヲ知ラセルモノデアルカラ法理上ノ價值ノ有無ナドハ頓着スルニ及ビマセン。上述日佛ノ條文ヲ一讀スレバ成程取引所ト云フモノハ各種ノ商人ヤ株式仲買人が政府ノ許可ヲ受ケテ其レノ類ヲ以テ相集リ、其營業ニ屬スル商品物件ヲ相互ニ賣買取引スル場處デアルト云フコトガ先ヅ讀者ノ頭腦ニ自ラ瞭然ト現ハレテ來マス御覽ナサイ、株式取引所ハ株式仲買人ノ集會所デアル、而シテ集會所トハ株式仲買人が朝夕相集マリ一定ノ規則ノ下ニ株式ヤ公債ヤ社債ヤヲ賣買スル市場デアルト云フコトニ依リテ讀者ハ必ズ茲ニ一ツノ建物ガアリ、其建物ノ内ニハ或ル一定ノ時間ニナルト株式仲買人が何處カラトナク多數集ツテ來テ口々ニ値段ト數量トヲ叫ビツ、各種有價證券ノ取引ヲスル混雜喧音ノ有様ヲ腦裡ニ畫カレルノデアリマス。而シテ此取引ニ付テハ其後ノ相場ノ昂低ニ依リ或ハ損益ヲ清算シテ差金ヲ授受スルコトモアレバ又或

ハ期限ニ至リ代金ト證券トヲ引換ヘニ受渡ヲ結了スルコトモアル、其間一定ノ法則ト規律トアリテ之ヲ整然ト統制シテ行クモノデアルコトヲ是又タ自然ニ想像セラレルノデアリマス。然リ、此想像通りデアリマス。此想像ニ依リ立派ニ取引所ハ輪廓ハ畫カレ株式取引所ハ市場ノ模様ガ鮮明ニ此法文ヲ讀ム者ノ眼前ニ現ハレ出ヅルノデアツテ立法者が法律ハ精神ヲ萬民ニ會得セシムル巧妙ハ技術ハ甚ダ稱讚ニ値ヒスルノデアリマス。

取引所立法ノ二大系ノ自由市場制ノ説明

由來歐洲ニ於テハ株式取引所ニ關スル法制ハ大略二種ニ分レテ居リマス、其一ハ英國主義ノ自由市場制デアリ、其二ハ佛國主義ノ法定市場制デアリマス。自由市場制トハ取引所ノ組織及其市場ノ管理ニ付テ國家ノ干渉絶無ナルカ又ハ極メテ微弱ナル干渉ノ存在ナラデハ認め得ナイモノヲ云フノデアリマス。此ノ自由市場制ノ下ニ在テハ取引所ハ他ノ商會社ト同ジク何人ニテモ自由ニ組織スルコトガ出來マス、書籍店、呉服店、雜貨店ト同様、何時デモ自由ニ開業スルコトガ出來マス。其他市場ノ開閉デアレ、會員仲買人ノ資格デアレ、賣買取引ノ期限及受渡方法デアレ、總テ當事者ノ自由ナル取極メニ放任セラレ國家ハ毫モ之ニ干渉シナイノデアリマス。此制度ハ實ニ理想的デアツテ、取引所當事者ヲシテ團體トシテモ個人トシテモ何等ノ制肘拘束ヲ受クル

産業ニ對スル政府ノ干渉ハ多クナリ有害無益ナ

自由市場制ハ英國國民ニシテ初テ其長結果ヲ生ズ

各國々民性格ノ相違

自由市場制ノ下ニ於テモ英國ニシテ正競争ナシ

法定市場制ノ日本ニ於テ正競争起ル

證券交換所事件

四

コトナク普通法ノ範圍ニ於テ自由自在ニ實際ノ環境事情ニ適合スル活動ヲ爲サシメ依テ以テ一國産業ノ隆昌發展ニ資スルノデアリマス。政府ノ干渉ガ多クノ場合ニ於テ約子定規ノ有害無益ナル容喙ニ歸スルコトハ事實ノ證明スル所デ何人モ之ヲ否認スルコトガ出来マセン。故ニ理想ヨリ曰ヘバ吾々ハ法定市場制ヨリハ寧ロ自由市場制ヲ推奨セザルヲ得ナイノデスガ、是レハ主トシテ國民ノ氣風性格ノ如何ニ因リテ決セネバナラス問題デアリマス。英國國民ハ御承知ノ通り至ツテ沈着デ感情ヨリハ理性ガ勝チ、總テノ社會的約束、換言スレバ永年ノ間社會一般守ラネバナラスモノトナツテ居ル傳統上ノ規律、慣習、道德ニ最モ忠順ナル人民デアリマス。私ハ西洋ノ事情ニハ至ツテ不案内デアアル、然レドモ會テ陪審制度ト取引所制度トヲ調査シタル際、此兩者ニ於テ英國國民ノ重厚沈毅ナル性格ノ一端ヲ見テ洵ニ敬服ニ堪エナカツタノデアリマス。取引所制度ニ付テ曰ヘバ、日本ニ於テハ法令雨ノ如ク、官吏雲ノ如ク瑣細ノ雜務マデモ一々指揮監督シテ居リマスガ英國デハ倫敦ノすこつく、えくすちえんぢハ世界第一ノ取引所デアアルニ拘ラズ建國以來未ダ會テ取引所ニ關スル一片ノ法令モ存在シマセン、未ダ會テ取引所ニ干渉スル一人ノ官吏モ存在シマセン、然リ而シテ取引所ノ機能ハ甚ダ圓滿ニ發揮セラレ其經濟上ニ於ケル任務ハ甚ダ完全ニ盡サレテ居ルノデアリマス。前ニ

五

述ベタ通り、取引所ヲ開業スルコトハ八百屋ヲ開業スルト同ジク何人デモ又タ何時デモ自由勝手ニ出來ルノデアリマスケレドモ重厚ナル英國人ハ舊來ノ社會約束ヲ重シ決シテ不正競争的ニ既設各取引所ノ傍ニ更ニ紫ノ朱ヲ奪ウガ如キ類似ノ取引所ヲ開業スル者ガアリマセン。此ノ如キ國民ニシテ初マテ自由市場制ハ其長所特色ヲ發揮シ得ルハデス。御覽ナサイ、日本デハ如何デアリマスカ。日本ハ英國ノ自由市場制トハ反對デ初メヨリ法定市場制ヲ採用シ、取引所ハ一地域一ク所ニ限ル、又タ政府ノ許可ヲ得ザレバ設立スルコトモ發起スルコトモ出來ヌ、取引所類似ノ業務ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ參千圓以下ノ罰金ニ處セラル、トノコトハ法文ハ上ニ炳焉トシテ日星ハ如ク明デアリマス。其レニ拘ラズ、大正七八年頃ニハ此ノ法文ヲ無視シテ政治界及實業界ノ有力者ガ東京大阪ニ證券交換所ト名ヅクル無免許ノ取引所ヲ設立シ盛ニ株式ノ定期取引ヲ行ヒ少シモ憚ル所ガ無カツタノデアリマセンカ。而カモ政府ハ此ノ顯然タル違法行爲ヲ不問ニ付スルノミナラズ、世論漸ク沸騰シテ放任スベカラザルニ至ルヤ既設取引所ヲシテ此不法取引所ヲ莫大ナル權利料ヲ拂フテ買收セシメタルニ至テハ是レ實ニ咄々怪事トシテ驚キ入ルノ外アリマセン。日英兩國國民ノ性格相反スルコト此ハ如シ、故ニ自由市場制ハ理想的ノ好制度デアリマスケレドモ日本ニ適當セザルコト

論ヲ俟タズシテ明白デアリマス。

次ニ法定市場制トハ取引所ノ設立、組織、管理ニ對シテ國々ニ因リテ多少寛嚴ノ差アルケレドモ國家ガ之ニ干涉シテ特別ナル監督ヲ加フルモノデアツテ、此制度ニ於テハ取引所ハ國家ノ保護ノ下ニ獨占的業務ヲ成シ、取引員ノ資格及取引方法等ニ付國家ガ強制的ニ一定ノ規律ヲ課スルデアリマス。此制度ハ大宗タルモノハ即チ佛國デアツテ、佛國ニ於テハ中古時代ヨリ取引所ニ關スル法令ガ發布セラレテ居リ、其最モ古キモノハふいりつぶ、る、べるノ勅令トテ其日附ハ遠ク千三百〇四年二月ニ週ツテ居リマス。從ツテ佛國ニ於テハ取引所ヲ一ノ經濟事象トシテ研究スル外、尙ホ一ノ法律事象トシテ盛ニ研究シ、之ニ關係スル書籍モ頗ル豊富デアリマスガ此事ハ他日諸君ノ徹底セル御研究ニ仰賴ミ致シテ置キ今日ハ之ニ説キ及ボスコトヲ見合セマス。

諸、吾國ノ法令ハ佛國ヲ模範トセル法定市場制デアリマス、其最舊最古ノ法令ハ今ヲ去ルコト五十四年、即チ明治七年十月十三日ヲ以テ發表セラレタル太政官布告第七號株式取引條例デアリマス。先ヅ此條例ノ布告セラレタル趣旨ヲ現代式ニ説明スレバ近代ノ産業ハ商業タルト工業タルト問ハズ非常ニ大規模ノ組織トナツタ、大規模ノ組織ニ依リテ大量ヲ生産シ、大量ヲ賣買シ、大量ヲ消化スルニ非ザレバ一國ノ産業

ヲ隆昌ナラシメ以テ國家ノ存在ト發展トヲ確保スルコトガ出來ヌ、而シテ大規模ノ組織ヲ完成スル爲ニハ廣ク國民一般ヨリ資本ヲ集メテ株式會社ヲ設立セネバナラナイ、株式會社ヲ設立スル爲ニハ株式取引所ヲ建テ取引所ニ於テ何時デモ何程デモ自由ニ且ツ容易ニ株式ヲ金ニ換ヘ、金ヲ株式ニ換ヘルコトヲ得ルヤウニセネバナラナイ。是レ歐米各國デ株式取引所ノ隆盛ヲ來ス所以デアツテ我國ニ於テモ商工業ノ發達ヲ圖リ株式會社ノ設立ヲ獎勵スルニハ先ヅ株式取引所ヲ拵ラエルコトガ必要デアルト云フニ在リマス。流石維新ノ際ハ人材最モ多ク輩出シタバケアツテ當局者ノ着眼ガ甚ダ高イ、而カモ當時法律ノ研究至テ幼稚デアツタニ拘ラズ能ク英佛兩主義ハ要領ヲ捉ヘ得テ着々肯綮ニ中リ、到底其後ニ於ケル通辯的立法者ハ眞似スルコトハ出來ナイ眞面目ナ所ガアリマス。是ヨリ進ンデ此法律即チ明治七年太政官第七號布告株式取引條例ノ要領ヲバ時間ノ許ス限リ説明スルコトニシマス。

大體ヨリ見レバ此法律ハ英佛兩制度ヲ折衷シ之ヲ我國情ニ合致セント努力セル苦心ノ程ガアリ、ト見エマス。先ヅ(A)取引所ノ發起及設立等ニ付テハ佛國ノ制度ニ則リ、取引所ヲ特許制度トシテ其獨占的特權ヲ認メテ居リマス。其關係條文ハ左ノ通りデアリマス。

明治七年太政官布告第七號株式取引條例抜抄

第一條 凡ソ商業ノ爲ニ緊要ナリトスル地ニ於テ株式取引所ヲ創立スルコトヲ許可シ其事務ハ部テ大藏卿ニ屬シタル國債頭ノ管轄タルヘシ 但シ營業ノ年限ハ創立ノ際ニ臨ミ之ヲ取極ムヘシ

日本政府ヨリ發行シタル或ハ將來發行スヘキ公債證書其他借金ノ證券ニテ讓渡ヲ公認シタル手形官許ヲ得テ創立シタル商業工業ノ株式又ハ證券賣買ヲ許シタル抵當證書鐵道郵便電信瓦斯水道鑛山等ノ如キ諸會社ノ株式類等ハ皆此條例ヲ遵奉シ株式取引所ニ於テ公ニ之ヲ賣買スル事ヲ得ヘシ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ取引所ヲ創立スルニハ少ナクトモ五人以上連名ニテ其地方官廳ノ奥印ヲ以テ創立願書ヲ東京大藏省ニ察ヲ設ケタル國債頭ニ差出スヘシ

此願書ニハ右發起人等ノ姓名宿所資本金額入金スヘキ株數等ヲ詳細ニ記載スヘシ國債頭ハ此願書ヲ落手シ右發起人等ノ身許商業行狀等ヲ探案シタル上ニテ創立許可ヲ交付スヘシ

第三條 發起人等ハ國債頭ノ創立許可ヲ得ハ官許ノ新聞紙或ハ他ノ方法ヲ以テ直ニ之ヲ公ニシ資本金額ヲ募ル爲ニ株式書込ノ案内ヲナスヘシ此案内ニハ取引所定款ノ考案資本金ノ總株數並ニ發起人等ヨリ入金スヘキ株高ヲ明細ニ記載スヘシ

取引所ノ資本金ハ每株百圓宛ニ取極メ發起人等ヨリ少ナクトモ其總高ノ三分一ヲ入金

シ殘高三分二ヲ世上ニ案内シテ書込ノ株主ヲ需ムヘシ

第四條 發起人等ハ新聞紙ヲ以テ公達シ右案内ニ應シタル株主等ノ集合ヲナシ投名法ヲ以テ三十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ差向キ五人以上ヲ選ミテ肝煎トナスヘシ但シ發起人株主ノ別ナク一株ニ付一説ヲ吐クノ理アルヘシ

此選舉ニ應シタル肝煎等ハ同僚中ヨリ又二人ヲ選ヒテ之ヲ頭取副頭取トナシ共ニ取引所ノ事務ヲ管轄シ創立ノ上追テ定式集會ノ選舉迄在職スヘシ

肝煎ハ支配人書記勘定方簿記方其餘必用ノ手代等ヲ命シ取引所ノ要件錄日記簿記ノ法ヲ定メ取引所建築ノ事務ニ取掛ルヘシ 但シ支配人以下ノ者ハ株主社員ノ内ヨリ選任スルト限ルニ及ハス其職務ニ耐ヘキ人物ヲ擇ミテ命スヘシ尤支配人ニ屬スヘキ者共ノ進退ハ支配人ヨリ肝煎ニ申立ルノ權アルヘシ

第六條 國債頭ハ頭取支配人ヨリ取引所ノ名ヲ以テ銀行ニ預ケタル公債證書ノ實額資本金ノ三分二ニ相違ナキ實證ヲ得ハ其殘高三分一ヲ以テ事實ノ入費ニ供シ開業ニ取掛リ差支ナキ哉否ヲ思考シテ後ニ開業免狀ヲ交付スヘシ 但シ國債頭ハ開業ノ上ニテ追テ其商業ノ模様ヲ検査シ賣主買主ヨリ差入タル證據金ノ合高ヲ見合セ凡其四分一ニ應スル丈ノ高ニ資本金ヲ増加セシムルノ權アルヘシ

頭取支配人ハ開業免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ取引所ヲ開キ商業ヲ始ムヘキ旨ヲ新聞

右ノ順序ヲ經テ茲ニ株式取引所ハ完全ニ成立シマス。此規定ニ依レバ株式取引所ハ第一ニ株式會社タルコトヲ必要條件トシマス、株式會社ニアラザレバ取引所ノ業務ヲ營ムコトガ出來マセヌ。是レハ政府ガ當時環境ノ事情ヲ參酌シ恐ラクハ株式會社ノ模範トスル爲メ強制的ニ株式會社ヲ設立セシメントスル意味モアリマセウ。又タ或ハ株式會社ヲシテ取引所ヲ開設セシムルコトハ倫敦スミツク、えくすちえんぢガ其手本トナツタモノハトモ思ハレマス。御承知ノ通り倫敦株式取引所ニ於テハ株式會社トシテノ當事者ハ不動産事務及取引所會員及代理人ノ入會金並ニ會費徵收等ノ會計事務ノミヲ取扱ヒ、純然タル取引所ノ機能ニ屬スル事務ハ之ヲ會員ノ自治ニ一任シテ居リマス。第二ニ取引所創立ノ發起ニハ政府ノ特許ヲ必要條件トシマス、政府ノ特許ガナケレバ創立手續ニ着手スルコトガ出來マセヌ。第三ニ發起手續ガ完了シ、總株式ノ引受及拂込ガ終結シ、創立總會ニ於テ肝煎即チ取締役五人以上ヲ選任シ、而シテ肝煎中ヨリ更ニ頭取副頭取ヲ互選シ資本金三分ノ二ニ該ル金額ヲ日本政府ノ公債ニ換ヘ之ヲ公立ノ銀行ニ預ケタル後、國債頭ハ更ニ是ニテ開業ニ取掛リ差支ナキ哉否ヤヲ考查シテ然ル後開業免狀ヲ下附シマス。即チ株式取引所ノ設立ニ付テハ嚴重ナル特許主義ヲ取り而

度(B)取引員制

カモ創立ト開業トニ付テ二重ノ許可ヲ要スルコト、シ以テ法定市場制ノ根本ヲ堅メテ居リマス。次ニ(B)取引所ノ取引員制度ニ付テハ英國主義ニ則リ倫敦スミツク、えくすちえんぢノ規則ヲ模範トシ又タ佛國ブーるすノ制度ヲモ參照シテ社員即チ會員制度ヲ拵エテ居ハマス。

第十四條

取引所ノ社員ニ新入シ或ハ復社セント欲スル者ハ毎年二月二日ヨリ三月一日迄並ニ八月二日ヨリ九月一日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名宿所年齢

商業等ヲ記シテ調印シ證人ノ連印ヲ要スヘシ

肝煎ハ毎年四月一日十月一日ニハ取引所ノ社員トナシテ相當ナリト思考スヘキ人物ヲ社員ニ新任シ或ハ復社セシムヘシ但シ入社ノ期限ハ一ヶ年限ト定メ毎年新任重任ト心得ヘシ尤モ身元金ハ金五百圓ト取極メ當日之ヲ支配人ニ差出スヘシ

社員望ミ人ハ取引所ノ株主或ハ社員ノ内ニテ二ヶ年以上入社シタル三名ヲ以テ證人トナスヘシ此證人ハ望ミ人新任ノ日ヨリ二年内ニ違約人トナル時ハ銘々金五百圓宛ヲ債主ニ辨フヘキ旨ヲ肝煎ニ約スヘシ但シ創立ヨリ二年間ニ社員タル者ハ社外ノ人ヲ以テ證人トナスコトヲ得ヘシ

望ミ人既ニ四年ノ間取引所ニ於テ社員ノ手代ヲ勤メタル時ハ其證人ハ二名ヲ以テ足レ

リトスヘシ

第十八條 毎年社員ノ選任相濟タル上ハ速ニ社員組合目錄ヲ刊行スヘシ 但シ社員ハ五

ノ申合ヲ以テ五人一ト組トナリ之ヲ肝煎ニ報知シ身許組合ト心得ヘシ

若此組合ノ一人破産スル歟違約人トナリテ破産ニ及ヒ尙ホ返金ノ仕法ニ十分ノ實額ナ

キトキハ肝煎自餘ノ四人ヲシテ若干ノ金ヲ出サシムヘシ 右ニ付組合ノ者ハ互ニ忠告

シ此條例並ニ申合規則ニ違背セサル様ニ心付ヘシ若シ組合中ニ不正ノ事アルヲ見當ラ

ハ速ニ其趣ヲ肝煎ニ通達スヘシ

社員即チ會  
員ハ倫敦取  
引所ニ做テ

巴里取引所  
ノ連帶責任  
ヲ取入ル

私ハ此二條ヲ讀ミテ實ニ明治初年ノ立法者ノ爛眼ニ敬服シマス。此二條ノ上ニ倫敦

取引所ノ會員制度ノ特色ガ判然トシテ現ハレテ居リマス、又タ巴里取引所ノ特色タル

連帶制度ノ精神モ彷彿トシテ窺フコトガ出來マス。此ニ所謂社員ト曰フノハ是レ「ま

んぶる」即チ「めんばー」ノ譯語デ、今日ノ法律デ會員ト稱スルモノニ該リマス。先

ヅ取引所ハ嚴重ナル特許主義ニ依リ株式會社ヲ設立セシメテ之ニ經營ヲ一任スル、是

レハ前述ノ通り純然タル法定市場制デアル、而シテ此法定市場ヲ實地ニ運用スル營業

者即チ市場ニ立チテ賣買取引ニ從事スル證券業者ハ之ヲ社員トシ、社員ニアラザレバ

賣買取引スルコトヲ許サナイ。社員トナルニハ其品性及經歷ニ付キ非難ナキ人物ニシ

新入社員ノ  
保證人ノ義  
務

テ肝煎ノ設備ヲ經タル者ニ限リマス。諸君ハ此法律ガ左ノ三點ニ於テ英國主義ハ長所

ヲ採用シタルヲ認メラハルデセウ。即チ第一點ハ新入社員ハ二ケ年以上引續キ就任セ

ル社員三名ノ保證アルヲ要シ、此保證ヲ爲シタル社員ハ若シ新社員ガ二年以内ニ違約

スルトキハ各自五百圓ヅ、ヲ債主ニ辨償スベキ義務アルコトデス、當時ノ五百圓ハ餘

程ノ大金デ恐ラクハ今日ノ五萬圓ニモ該當スルデセウ。英國ニテハ倫敦すみつ、え

くすちえんぢノ規約トシテ新會員ハ四年以上引續キ會員タル者四名ノ推薦ヲ要シ、其

推薦者ハ新會員ノ品性ヲ保證シ且ツ此新會員ガ會員トナリテヨリ四年以内ニ違約者ト

ナリシ節ハ其債主ニ對シ各自五百リ一ぶる(磅)マデ負擔スル義務ガアル、此ノすみつ

く、えくすちえんぢノ規約中、四名ヲ三名トシ、四年ヲ二年トシ、五百リ一ぶるヲ五

百圓トシタノデアリマス。私ハ此法律ヲ見テ若シ此條文此精神ガ其後ハ立法ニ保全セ

ラレ今日マデ存續シ來リシナラハ今頃ハ如何ニ立派ナ美果ヲ結ンデ居ルデアラウカト

之ヲ讀ム毎ニ幾回カ嘆息スルコトヲ禁ジ得ナイハデアリマス。

次ニ第二點トシテ社員ハ一年毎ニ新ニ設備シ或ハ舊社員ヲ重任セシメ或ハ新社員ヲ

加入セシメルコトデス。社員ガ破産シ違約シ、其他重大ナル品性汚瀆ノ行爲アルトキ

ハ除名ニ依リテ社員タル資格ヲ剝奪シマス。ケレドモ破産モセズ、違約モセズ、其他

新一年毎ニ更



是レゾト云フテ特ニ指摘スルホドノ重大ナル品性汚濁ノ行爲ハナイガ世上ノ評判何ト  
 ナク宜シカラズ仲間ノ信用何トナク薄ラギ行キ人々之ト取引スルヲ厭フコトガ往々之  
 レアリマス。元來社員ハ公ケノ市場ニ立チ廣ク公衆ノ依頼ヲ受ケテ有價證券ノ賣買ニ  
 従事シ其取引シタル建値ヲ以テ公ケハ信用アル公定相場トスルノデアルカラ、單ニ重大  
 ナル缺點ガナイト云フ消極的ノ條件ノミデハ満足スルコトガ出來マセン、尙ホ進シデ  
 積極的ニ公衆ノ尊敬ヲ博シ公ケノ市場ニ公衆ヲ代表スルニ足ルベキ信用アルコトヲ要  
 シマス。此條件ニシテ缺クル所アラバ、ヨシヤ破産セズ違約セズ其他重大ナル品性汚  
 濁ノ行爲之ナシトスルモ其人ハ既ニ會員タルベキ實質上ハ缺格者タルヲ免レマセズ。  
 然ドモ此等ノ者ヲ直チニ除名スルト云フコトハ人情何トナク餘リニ氣ノ毒デ之ヲ斷行  
 スルコトガ六ケシイカラ倫敦スミツク、えくすちえんぢニ於テハ會員ハ毎年一回必ズ  
 其選任ヲ更新スルコト、ナツテ居リマス。信用ノ怪シイ者ハ除名ト云フ角立チタル處  
 分ヲセズ、其人ノ信用ヲ表面カラ破壊スルヤウナ手酷イ處置ヲセズシテ其更新ノ際ニ  
 默シテ之ヲ選任中ヨリ除却スレバ當然會員ノ資格ガ消滅シ圓滿ニ排斥ハ目的ヲ達スル  
 ハデアツテ是レ實ニ實際ニ重キヲ置ク所ハ英國主義ハ長所ト云ハネバナリマセズ。立  
 法者ハ此長所ヲ捉へ來リテ之ヲ我制度ニ注入シ、社員ハ毎年一度必ズ其選任ヲ更新ス

五人一組ノ連帶制度

佛國ぶーる才制度ノ精華

嚴選主義ト包容主義トノ利弊

ルコト、爲シタルハ私共ノ最モ推奨シテ止マザル所デアリマス。

次ニ第三點トシテハ毎年社員ノ選任相濟ミタルトキハ社員ノ申合せニ依リ五人一組  
 トナリテ之ヲ身許組合トシ、此身許組合ノ中一人破産シ又ハ違約シテ辨濟ノ資力ガ缺  
 乏セルトキハ肝煎ハ自餘ハ四人ニ若干ハ金ヲ出サシムベシトアル。又タ組合ノ者ハ互  
 ニ業務上ノ事ニ付注意シ不正ノ事アルヲ見當ラバ速ニ肝煎ニ通知スベシトアル。此點  
 ハ佛國ぶーる才制度ノ精華タル仲買人ハ連帶制ヲ我國ニ移植セントスル最モ聰明ナル  
 識見ニ出デタルモノデアリマス。元來取引所ノ取引員ニ付テハ包容主義ト嚴選主義ト  
 アリ、英國ハ包容主義ニシテ倫敦取引所ノ會員今日約五千人近クニ上ツテ居ルトノコ  
 トデス。反之佛國ハ嚴選主義ニシテ、巴里取引所ハ千八百九十八年マデハ六十人、同年  
 以後ハ増加シテ七十名トナリ今日モ同數デアリマス。包容主義ノ國デハ數千人ノ多數  
 ガ互ニ相識リ相信ジ相監督スルコトガ不可能デアルカラ各自其固有ノ信用ニ立籠ツテ  
 孤立スルノ外アリマセズガ、嚴選主義ノ國デハ數十人ノ少數デアルカラ各自互ニ注意  
 シ互ニ警戒シ其内ノ一人若シ其業務ノ執行ニ付キ不穩當又ハ不堅實ナル形迹アルトキ  
 ハ直チニ調査ヲ遂ゲテ大事ニ至ラザル間ニ之ヲ防止スルコトガ出來マス。此ヲ以テ巴  
 里取引所ニ於テハ舊來各仲買人ハ其注文者ニ對シ連帶シテ其義務ヲ履行スル慣例ガ嚴

連帶制ハ千八百九十八年六月二十九日ノ大統領令ニ依リ具體化ス

禁利ニ無關係ナルコトヲ裁判官ノ如シ

連帶制ニ其仲買ノ犧牲ナル危險ナシ

然トシテ存在シ遂ニ千八百九十八年六月二十九日ノ大統領令ニ依リテ此慣習ヲ確認シテ之ヲ明文ニ示サレタノデアリマス。實ニ此ノ仲買人ノ連帶制度ハ佛國取引所ガ全世界ニ誇ルベキ特色デアツテ之レガ爲メ巴里取引所ハ世界ノ最安全ナル取引所ト云ハレ戦前ニ於テハ巴里取引所ハ倫敦、紐育ト鼎立シテ相讓ラズ、而カモ取引安全ノ故ヲ以テ纏リタル大量ノ取引ハ世界各地ヨリ最モ多ク巴里ニ集中スルニ至ツタノデアリマス私ハ他日此連帶制度ニ付キ調査ノ結果ヲ公ニスル考ヘデアリマスガ、今、此序ヲ以テ聊カ其概略ヲ左ニ申シ上ゲルコトニ致シマス。

抑モ巴里株式取引所ノ仲買人ハ全世界ガ今日マデ追隨スルコトガ出来ナイ、又タ今後トテモ恐クハ永遠ニ追隨スルコトガ出来ナイ所ノ大ナル誇リヲ有ツテ居ル、ソレハ今日ノ取引所ガ再設セラレテ基礎安定セシヨリ以來未ダ曾テ一回ダモ其得意先ニ對シテ迷惑ヲ掛ケタコトガナイト云フ尊イ美シイ歴史デアル。巴里取引所ノ取引員即チ仲買人ハ嚴選セラレタル少數ノ人士デ前述ノ通り千八百九十八年マデハ六十人、同年以後ハ七十人デアリマス。彼等ハ其品性及資産ニ關シテ嚴重ナル條件ヲ要求セラレ、且取引所ニ於テ自己ノ計算ヲ以テ賣買スルコトハ勿論、取引所以外ニ於テモ一切營利事業ニ關係スルコトヲ嚴禁セラル、コト恰モ我邦ハ裁判官ト同様デアリマス。故ニ佛國

ニ於テハ株式取引所仲買人ハ有價證券ニ對スル需用供給ヲ市場ニ取次ギ、之ヲ適當ニ調節シ、整頓シ以テ公正ナル相場ヲ表示シ、之ニ依リテ證券ノ流通ヲ滑ニシ、國家産業ノ發展ニ協力スルト同時ニ國民ノ貯蓄ノ結晶ヲ適當ニ保護スル公ケノ職司ナリト看做サレテ居リマス。此ノ如ク一ニハ社會カラ尊敬セラレ、二ニハ十分ノ資産ト收入トヲ有シ、三ニハ一切ノ營利事業ヲ禁止セラレテ損失ノ危險ナク、四ニハ同僚ノ數僅々數十人ニ止マリ、相互ニ監督スルコトガ容易デアルカラ、古クヨリ巴里取引所ノ仲買人ハ其相互間ニ於テハ勿論ハコト其得意先ニ對シテモ連帶シテ辨濟ハ責任任決シテ他人ニ迷惑ヲ掛ケヌト云フ美風ガ自然ニ養成セラレタハデアリマス。斯ク言ヘバ人或ハ怪ムデアラウ、總テノ仲買人ハ注文者即チ客ニ對シテ連帶シテ債務辨償ノ責ニ任ズル、客ハ安心シテドシ、注文スル、ソレハ洵ニ結構デアルガ若シ其間ニ不良ノ仲買人アリテ世上ノ信用ヲ惡用シ、違法ナ大投機ヲ爲シテ失敗スルヤウナコトガアレバ其失敗ノ責任ハ悉ク他ノ善良ナル仲買人ノ負擔ニ歸シ、良仲買人ハ常ニ惡仲買人ノ犧牲トナルデナイカト。此ノ疑ハ尤モ千萬デアアル、ガ、前ニ申上ゲタ通り巴里取引所ノ仲買人ハ第一ニ自己ノ計算ニ於テ賣買スルコトヲ禁ゼラレテ居リ、此ノ禁令ハ最モ嚴重ニ勵行セラレテ居ル。タトヒ、其仲買人ガ他人ノ名義ヲ藉リテ自己賣買ヲ行フテモ決

(イ)市場ハ銳  
敏ナリ

シテ何時マデモ之ヲ隠シ得ルモノデハナイ、何時トハナシニ必ズ人ガ知ル、殊ニ市場ノ人々ハ此等ノ秘密ヲ知ルニ最も鋭敏デアツテ、ドンナ細カイ隠レタ事デモ掌ヲ反ス間ニ必ズ之ヲ嗅ギ付ケルノデアアル、自己ハ賣買カ他人ハ注文カ、敏覺ナ市場ノ人々ハ決シテ之ヲ氣付カズニ長日月ヲ經過スル筈ガナイ。ソレ故市場ノ人々ハ未ダ大事ニ至ラザルニ先チ自己賣買ヲ爲ス仲買人ニ對シテ嚴重ナ處置ヲ取り、其者ヲ除名シテ大事ヲ小事ノ内ニ防過スルノデアリマス。第二ニ取引所即チ仲買人團體ノ理事者ハ常ニ各取引員ハ帳簿ヲ嚴重ニ検査シ、其銀行計算ヲ漏レナク取調べ、仲買人ガ客トノ關係ニ於テ成規ノ證據金ヲ預ラズニ危險ナル注文ヲ受ケテ居ルノデナイカ、客ヨリ預ツタ證據金ヲ精確ニ保管セズニ、他ニ流用シテ居ルハデナイカヲ最も精密ニ審究シ、現金及證券ノ有高ヲ對照シマスカラ仲買人ハ客ノ預リ金ヤ預リ證券ヲ使込ムヤウナ隙ガ到底アリ得ナイノデアリマス。此等ノ事由ニ依リ巴里取引所ハ仲買人ハ互ニ安心シテ連帶スルコトガ出來ル、客ハ安心シテ注文スルコトガ出來ル、巴里仲買人ニ注文シタ客ハ決シテ損ヲシ迷惑シタ例ガナイト云フコトハ是レ獨リ仲買人其人ノ誇リノミナラズ實ニ佛國人ノ誇リデアリマス。ほん氏、ぶーごん氏等ノ著書ニ依リテ見ルニ政治上經濟上其他ノ原因ヨリ一朝大恐慌ノ來襲シタ節、歐洲各地ノ取引所デハ仲買人ノ支拂停止

(ロ)組合ノ檢  
査

財界恐慌ノ  
トキニモ巴  
里仲買人ハ  
不動如山

相踵ギテ發生シ、紐育ハ勿論倫敦取引所デスラモ會員中昨日ハ二軒破産者ガ出來タ、今日モ三軒閉店シタト云フ飛報ガ頻々耳朶ヲ打ツノ時ニ方リ巴里取引所仲買人ハ、泰然動かザルコト山ノ如ク、平日ト少シモ異ナル所ナク營業スル、而シテ注文者モ其支拂ニ絶對ノ信用ヲ置イテ居ルカラ世上ノ恐慌如何ニ拘ラズ一人モ預ケ金ヤ證券ヲ引出スモノガナイ、其立派ナル營業振リハ見ルカラニ崇高壯嚴ナ感ガスルトハコトデアリマス。

仲買人破産  
ノ場合

仲買人ノ破  
産ハ必ズ有  
罪破産ナリ

然ドモ永年ノ間、巴里取引所仲買人トテモ決シテ絶對ニ一人ノ支拂停止者ヲ出サナイト云フ譯デアリマセヌ。大革命ヲ去ル遠カラザル時代ニハ可成破産者モ多カツタト云フコトデスガ其後秩序ガ整頓シテカラハ漸次稀少トナリ、殊ニ此處數十年間ハ殆ド曉天ノ星ノ如ク指ヲ折リ盡スコトガ出來ヌホド少數デアリマス。ソレモ其筈デス、前述ノ如ク仲買人ハ相互ノ警戒ト取引所理事會ノ監督トガ嚴重デアルノミナラズ、仲買人ハ支拂停止ハ法律上常ニ必ズ有罪破産ヲ以テ問振セラレルコトニナツテ居リマス、カラ各人極力自重自警シテ支拂停止ニ至ルヤウナ無謀ヲセヌノデアリマス。故ニ巴里取引所仲買人ノ支拂停止即チ破産案件ハ極メテ稀レデアツテ、吾々法律家ハ見地ヨリ取引所制度ヲ研究セント欲スル者ハ寧ロ其研究ノ材料ハ甚ダ乏シキヲ嘆ズルノデアリ

マ。今、最近二十年間ニ於テ私ノ書齋ノ貧弱ナル參考書中ヨリ漸クニシテ求メ得タル  
ルハ、破産事件ニ付テ之ヲ見ルニ仲買人組合ハ第一ニハ、仲買店ノ總債權者  
ニ對シ其全額ヲ償還シマシタ。其總債權者ト云フノハ勿論注文者デアツテ、實買委託  
ノ爲メ預ケ入レタル證據金返還請求ノ債權、差引計算ノ末ニ殘存スル利益金請求ノ債  
權、並ニ此兩種ノ債權ニ付キ受取ルベキ金額ヲ其儘預ケ入レタル所ノ更改ニ依ル貸借債  
權、及假引資金トシテ預入レ又ハ假渡證券トシテ預入レタル寄託者ノ返還請求權、以  
上四種ノ債權ニ對シテ元利ヲ清算シテ其金額ヲ綺麗ニ支拂ヒシマシタ。第二ニ其支拂  
ヒタル金額ニ付テハ、自ラ之ヲ破産財團ニ届出デナイ、此金額ニ對シテ受取り得ラルベ  
キ配當金ハ之ヲ前述四種以外ニ屬スルハ、仲買店ノ債權者即チ營業出資者ノ爲メ  
ニ提供シマシタ。右ノ通りデバ、仲買人組合ノ尊敬スベキ紳士的態度ニ依リ、仲買營  
業ハ總債權者ハ其仲買人が破産シテモ、厘毛ハ損害ヲ受ケズ、又々支拂遲延ハ苦痛ヲモ受  
ケズ、迅速ニ完全無缺ノ辨濟ヲ得ラレルノデアルカラ、巴里仲買人ノ信用ハ自然ニ増  
進セラレ其位置ハ自然ニ尊敬ノ中心タラザルヲ得ナイノデアリマス。而シテ此連帶責  
任ヲ負擔スル財産トシテハ、千八百九十八年六月二十九日ハ、大統領令ニ於テ、(1)仲買人權  
利料、(2)共同積立金、(3)仲買人身元保證金ノ三者ヲ指定シテ居リマス。此以外ハ個

法律上モ無  
限ノ連帶責  
任ヲ盡ス覺  
悟ヲ有ツテ  
居ル  
歐洲大戰ノ  
際ニ於ケル  
健康ナル仲  
買人ノ態度

人的財産ヲ以テ連帶責任ヲ履行スル義務ハ、ナイハデアリマス。此三者ノ時價ハ戰前ニ  
於テ一億四千萬法ト概算セラレテ居リマシタ。戰後ニ於テハ物價騰貴及通貨暴落ノ結  
果トシテ法ノ數額ハ恐ラクハ其十倍ニモ増加シテ居ルデアリマセウ。尙ホ表面ノ規定  
ハ右ノ通り連帶責任ニ一定ノ制限ガアリマス。實際ニ於テハ必要ニ應ジテ巴里株式仲  
買人ハ無限ニ其責任ヲ盡シ斷ジテ注文者ニ厘毛ハ迷惑ヲ掛ケナイト云フ健康ナル決心ヲ  
有ツテ居リマス。現ニ千九百十五年即チ歐洲大戰開始ノ次年巴里株式仲買人ハ支拂猶  
豫法ノ利益ヲ拋棄シ其得意先ニ對シテ進ンデ債務全額ノ支拂ヲ爲スコトニ決定シ、現  
金七千五百萬法ヲ調達シ、尙ホ佛蘭西銀行ヨリ二億五千萬法ノ借入約款ヲ結ビ、且ツ  
其上必要限度マデハ無限ニ短期公債ノ融通ヲ受ケルコトノ諒解ヲ得テ其支拂ヲ開始シ  
タル處、得意先ハ何レモ其儘仲買人ニ預ケ置クヲ最安全ナリトシテ支拂ヲ希望スル者  
甚ダ夥カリシ爲メ、支拂額ハ現金七千五百萬法ニテ多額ノ剩餘ヲ生ジタル事實ガアリ  
マス。自分ノ債務者ニ對シテハ支拂猶豫法ニ依リテ支拂ヲ延バシテヤリ、自分ノ債權  
者ニ對シテハ猶豫ノ特典ヲ辭退シテ綺麗ニ支拂ヲスルト云フ殆ド探算ヲ度外視シタル  
此崇高ナル紳士的態度ニ依リ、諸君ハ巴里株式仲買人が如何ニ其責任ヲ果シ其商業道  
徳ヲ守ルコトノ堅キ決心ヲ有ツテ居ルカ、從ツテ社會一般ガ巴里株式仲買人ヲバ如何

ニ信賴シ如何ニ尊敬シテ居ルカラ粗ボ推知シ得ラル、コト、思ヒマス。私ハ先年此點ニ付イテ特ニ巴里株式取引所ノ理事長ニ調査ヲ依頼シテ親切丁寧ナル報告書ヲ受取ツタノデアリマス。

明治七年ノ立法者此連帶制ニ着眼ス

五人組制度カ連體ノ基礎ヲ成ス

五人一組トナリテ連帶ス

明治七年太政官布告第七號株式取引條例ノ立法者ハ早くモ此連帶制度ニ着眼シマシタ、而シテ此制度ヲ吾邦ニ輸入スルニ方リ之ヲ鵜呑ミニセズシテ巧ニ換骨脱胎シテ之ヲ吾邦固有ノ慣習ニ適合セシメント企テマシタ。蓋シ吾邦ニハ幕政時代ニ有名ナル五人組制度ト云フモノガアツテ五人ト云フ數ガ昔ヨリ共同連帶ノ基礎ナルカノ如ク看做サレテ居リマシタ。ソコデ只今株式取引所ノ社員間ニ連帶制度ヲ創定スルニ方リ立法者ハ蓋シ考ヘタデセウ、英國流ノ包容主義ヲ採用シタル我社員制度ノ下ニ於テハ社員ノ數多キニ過ギテ相互ニ注意シ監督スルコトガ六カシイカラ總社員ニ連帶ヲ強ユルハ無理デアアル、幸ヒ昔ヨリ此五人組ノ制度ガアツテ其精神ハ深ク社會ノ隅々マデ行渡ツテ居ルカラ之ヲ取ツテ甘ク連帶制度ニ加味スルニ如クハナイト。依テ社員中互ニ知リ合ヒ信ヅ合ヘル五人ヲ以テ一組ト爲シ、一組五人ハ者ハ平常相互ニ注意シ監督シ而シテ其内ハ一人破産シタルトキ肝煎ハ他ハ四人ヲシテ若干ノ金ヲ出サシムルコトハシ以テ當時ノ國情ニ照ラシテ實行シ得ベキヤウ巧ニ變更ヲ加ヘタノデアリマス。若干

連帶ノ限度ヲ手加減ス

ノ金トハ曖昧デアリマスケレドモ、破産ノ負債全部ヲ支拂ヘト云ヘバ不安危懼餘リニ甚シイカラ其裁量ヲ肝煎ニ一任シ、其債權ノ性質ヤ成立ノ事由ヤ考ヘ又他ノ四人ノ資力程度モ參酌シ然ルベク手心ヲシテ其金額ヲ決定スル事ニシタハハ私ハ實ニ立法者ハ炯眼ト變通ハ才ニ富マルトニ敬服セザルヲ得マセン。此精神ガ引續キ其後ニ保存セラレシナラバ今日ニ於テハ蓋シ既ニ鬱然タル吾取引所制度ハ獨特長所ヲ成シ取引所モ社會一般モ共ニ其惠ヲ享ケ得タデアリマセウガ、惜ムラクハ立法者ハ見識熱誠及研究心ガ漸次ニ萎微シ行キ下手ナ大工ガ家ヲ建換ヘク、遂ニ怪物屋敷然タル不恰好ノモノトシテ了フタト同様、今日ノ如キ主義系統ナキ不體裁千萬ナ拙法劣律トナツタノデアリマス。

(C)取引所ノ管理ニ過ギズ干渉ニ流レズ

事務執行

其次ニ(C)取引所ノ管理ニ付テ之ヲ見ルニ實ニ放任ニ過ギズ干渉ニ流レズ、思ヒ切ツテ取引所ノ自治ヲ認メナガラ而カモ能ク其大綱ヲ持シ國家ノ監督權ヲ適度ニ保有シテ居ル點ハ更ニ私ノ敬服ニ堪エザル所デアリマス。其要領ヲ曰ヘバ  
(イ)事務執行ニ付テハ毎年二月一日定式集會ヲ催シ投名法(今日ノ所謂投票)ヲ以テ十人以上二十人以下ノ肝煎(今日ノ所謂取締役)ヲ株主及社員中ヨリ選舉セシメマス而シテ法律ノ命令ハ此點ニ止マリ肝煎ヲ認可シ又ハ認可セザル職權ヲ政府ニ與ヘ

重役任免ノ  
權利ヲ官吏  
ニ與ヘズ

市場統制

申合規則ニ  
一任シ自治  
權ヲ尊重ス

監督變ジテ  
干渉トナリ  
干渉變ジテ  
政府ノ直接  
營業トナル

泣ク兒ト地  
頭トニハ勝  
テメ

取引所ノ機  
關(役員)

重大ナル經  
濟機關

官僚的因循  
姑息ハ取引  
所ヲ殺ス

現行ノ取引  
所法

テ居リマセン。政府ニ此ノ如キ過大ノ權力ヲ與フルハ實際ニ不用ナルノミナラズ此權力ヲ使用シタル結果ハ多クノ場合ニ於テ其株式會社ノ爲メ有害無益デアルコトハ政府ノ直營同様デアル所ノ特種銀行會社ガ大半成績最不良ナルニ徴シテ證據顯然トシテ居リマス。

(ロ) 市場ノ統制ニ付テハ定期取引ニ關スル基本則即チ十五日及月末ヲ決濟期トスル四切制度トシ、約定日限ノ不履行ニ對スル制裁ヲ定メ、證據金及增證據金ノ標準ヲ一定シ、其他二三ノ重要原則ヲ規定シタル外、一切ノ枝葉末節及手續ニ關スル事項ハ舉ゲテ之ヲ申合規則ニ一任シテ毫末ノ干渉ヲ爲サズ、以テ市場ノ自治ト官憲ノ監督トヲ適當ニ調和シテ居リマス。其後、取引所法ハ無數ノ變革ニ遭ヒ殊ニ明治二十六年、同三十三年等ニ數次ノ大改正ヲ受ケマシタガ其改正毎ニ無暗ニ政府ハ監督權ヲ擴張シ、加之監督ハ變ジテ干渉トナリ干渉ハ更ニ變ジテ政府ハ直營同様にナツテ居リマス、只ダ政府ノ直營デナイコトが見ラレルノハ取引所ガ業務上カラ損失ヲシタ場合ニモ政府ニ賠償ノ義務ガナイト云フ一事デアリマス。泣ク兒ト地頭トニハ勝テメト數百年來武門政治ハ下ニ經過シテ服從的精神ハ遺傳ニ富ムデ居ル日本ニ於テコソ初マテ此ノ如キ過度ノ干渉ガ滯リナク行ハレルハデアツテ

或ハ佛國ノ連帶制度ト同ジク世界ニ獨歩スル特色ト云ヒ得ルデアリマセウ。  
(ハ) 更ニ取引所ノ役員ニ付テハ全然株主及社員ノ投票ニ一任シテ政府ハ之ニ一切ノ干渉ヲ加フルコトナク其任期中政府ハ意思ヲ以テ勝手次第ニ役員ヲ罷免スルガ如キ權能ヲ一切認メテ居リマセン。抑モ取引所ハ國民資産ノ大部分ヲ成ス所ノ有價證券ノ需用供給ヲ調和シテ其公正ナル相場ヲ現出セシメ依テ以テ金融ノ疏通ト、産業ノ振興ト國民貯蓄ノ保護トヲ全フスベキ重大ナル經濟機關デアリマス。而シテ其機能ヲ十分ニ發揮シ其任務ヲ完全ニ盡スニハ常ニ千萬化スル市場現象ニ順應シ微妙且ツ機敏ナル手心ヲ要スルモハデアルカラ形式ニ拘泥スル守株膠柱的ノ管理法ニテハ到底駄目デアル。是レ此立法當時ハ幕政ヲ距ルコト未ダ遠カラズ、官權萬能役人全盛ノ時代ナリシニ拘ラズ、法律ニ於テ取引所ノ構成及管理ニ對スル基本的原則ハミテ決定スルダケニ満足シ、此原則ハ範圍ニ於テ之ヲ運用スルコトハ全然役員ニ一任シ、而シテ其役員ハ選舉ハ又之ヲ全然株主及社員總會ニ一任シ政府ニ於テ毫末ノ干渉ヲ加ヘザル所以デアリマス。試ニ今日ノ法律ニ對照スルニ現行ノ法律即チ明治二十六年三月四日公布ノ取引所法第十六條ニ  
取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ

總會ダケデ  
ハ不安心ダ

之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受クヘシトアリマス。總會ノ選舉ダケデハ不安心ダ、政府ガ自由ナル裁量ニ依リ認可不認可ヲ決定スルト云フテ居ルハデス。然レドモ官僚的立法者ハ之レダケデノ職權ニテハ自ラ満足スルコトガ出來ナイ、既ニ認可シタル後ニテモ氣ハ向キ次第、何時ニテモ其職務ヲ剝奪スルコトガ出來ルト云フヤウニセネバ夢穩カナラヌトアツテ第二十七條ニハ更ニ左ノ通り規定セラレテ居リマス。

農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若クハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取引所ノ解散
- 二 取引所ノ停止
- 三 取引所一部ノ停止又ハ禁止
- 四 役員ノ解職
- 五 會員又ハ仲買人ノ營業停止若クハ除名

ト。御覽ナサイ、峻烈ナル此明文ヲ。第一ニ農商務大臣ガ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益公安ニ妨害アリト認ムルトキハトアリテ實際法律命令ニ違反ス

「認ムルトキ」

行政官ノ斬  
捨御免

ル事實又ハ公益公安ニ妨害ヲ與フル事實ノ有無ヲ問ハナイ、又其大小輕重ノ如何ヲ問ハナイ、換言スレバ客觀的事實ハ措イテ問ハナイ。只ダ農商務大臣ガ之ヲ認メタト云フ主觀的事實サヘアレバソレデ宜シイ。此認メタト云フコトガ實際ニ違フテモ違ハナイデモソレハ少シモ關係ナイノデアル。取引所ノ行爲ガ法律命令ニ適合シ、公益公安ニ裨補協力スルトキト雖モ農商務大臣ガ誤ツテ之ヲ反對ニ認メサヘスレバ其認メタト云フコトダケデ眞正ノ事實ハ虛偽ノ認定ニ壓伏セラレ取引所ノ解散、役員ノ解職、取引員又ハ會員ハ除名、ドシナ極端ナ處分デモ自由自在ニ出來ル。此處分ニ對シテ事前ニ一言ノ辯明ヲモ許サズ、事後ニ一辭ノ抗議ヲモ許サナイ。諸君、斬捨御免トハ眞ニ此事デアリマセンカ。此ノ如キ武斷的ナル壓制的ナル權力濫用ヲ認メル法律ハ世界中、日本ヲ除イテ外恐ラクハ一國モアリマスマイ。若シ他ニ類例ナキ事ガ誇リデアラナラバ是又佛國ノ連帶制度ト同ジク日本ノ誇リデアラネバナラヌト思ヒマス。但實際ニ於テハ私ハ當局大臣ガ株式取引所ニ對シテ此ノ如キ權力濫用ヲ敢テシタコトヲ從來未ダ會テ見聞シマセン。加之此處數年來ハ當局者ノ措置大ニ立憲的トナリ其指導又ハ訓令ガ着々機宜ニ適ヒ、干涉壓迫ノ舊氣分頓ニ消エ去ツタノハ顯著ナル事實デアツテ吾々取引所關係者一

同ノ深く悦服シ且感謝シテ居ル所デアリマス。然レドモ取引所法ニ此ノ如キ過大ノ權力ヲ認メテ置クカラ他ノ行政廳モ之ヲ先例トシテ特別監督ニ服スル法人其他ノ團體ニ對シテ自然ニ過大ノ權力ヲ要求シ且之ヲ濫用スルヤウニナリマス。往年護憲内閣ノ際某省大臣ガ東京大阪名古屋ニ於ケル特殊社團ノ理事一同ニ辭職ヲ強要シ、之ヲ肯ゼザルモノニ對シテハ高壓的ニ解職ヲ命ジ其後任ニ部下ノ官吏ヲ据付ケタト云フ頗ル露骨ナ傍若無人ノ實例ガアリマシタ。要スルニ取引所ニ對シテハ法定ノ大權力ヲ實際濫用シタト云フ實跡ハナイケレドモ何時デモ濫用ノ出來ルヤウナ惡制度ヲ存置スルコトハ法治國トシテ不面目デアアル。此ノ如キ惡制度ヲ設定セズ此ノ如キ過大ノ權力ヲ要求セザリシ所ノ明治七年太政官第百七號布告株式取引條例ハ立法者ハ流石ニ見上ゲタ立派ナ見識ヲ具ヘテ居ラレマシタ。

(二) 取引員ニ付テモ此法律ハ入社ノ許否及懲戒處分等ヲ一切取引所ノ自治ニ任セ政府

取引員  
政府ハ少シ  
モ干渉セズ

現行法ハ干  
渉主義

ハ少シモ干渉セザルコト取引所役員ニ關スル場合ト同一デアリマス。現行法即チ明治二十六年ノ取引所法ハ其第十條ニ於テ取引員ハ政府ノ免許ヲ要ストシ、又第二十七條ニ於テ農商務大臣ハ何時ニテモ取引員ノ營業停止若ハ除名ヲ命ズルコトヲ得ルトシテ絶體無限ノ權力ヲ官憲ノ手ニ握ラセテ居リマス。實ニ此立法者ハ世

官吏ノ干渉  
ハ産業ノ妨  
害トナルノ  
ミテ少シモ  
利益ナシ

何ノ干渉モ  
ナキ紡績業  
ノ好成績ヲ  
見ヨ

ニ倚ヒナキ壓制好キ武斷好キデ、伊太利ハむつそりハモ跳足デ逃ゲル程デアリマス。理窟ハ姑ク措キ凡ソ商工業ノ事ハ政府ガ成ルベク直接ニ干渉セヌヤウニスルノガ産業ノ自然ナル發展ヲ計ル所以デアリマス。由來私同様實際ニ迂遠デ理窟ノ末ニ奔リ而シテ事ニ臨ンデ責任ヲ引受ケルコトニ躊躇スルノハ古今東西、官僚ノ通有短所デアツテ、規則ト形式トニ縛ラレル爲メ聰明ノ士モ己ムナク此ニ至ルノデアリマス。故ニ此短所ヲ有スル官僚ガ或ハ認可ノ權ヲ有チ或ハ指揮ノ權ヲ有チ餘リニ深入リシテ干渉ヲ事トスルト云フコトハ多クハ圓滑ト機敏ト果斷トヲ尙ブ産業ノ妨害トナルハミデ其利益トナルコトハ頗ル稀レデアリマス。御覽ナサイ目下本邦ニテ最モ發達シ最モ盛大トナリ歐米ノ如何ナル國ニモ少シモ劣ル所ナク世界ノ競争場裡ニ立チテ優勝ノ位置ヲ占メテ居ル近代的大工業ハ何カト云フト、ハレハ問ハズシテ紡績業ナルコトヲ知リマス。此紡績業ハ原料ヲ支那、印度、米國、埃及等ニ取り、而シテ其製品ハ日本全國ノ需用ヲ満足セシメタル上、支那、印度、南洋諸國ヲ初トシ遠ク巴爾幹及比亞弗利加ノ諸地方ニ及ンデ居リマス。加之、我國ノ紡績業者ハ支那ニ於ケル紡績工業ノ大部分ヲ其掌中ニ握リ、更ニ進ンデ印度地方ニマデ其權力ヲ擴大シテ居リマス。尙ホ加之、此紡績業ニ附帶スル我



國ノ棉花賣買業者ハ東西兩洋ニ手ヲ擴ゲ諸外國ノ間ニ立チテ日本ニ關係ナキ棉花ノ賣買ニマデ携ハツテ居ルノデアリマス。洵ニ驚異スベキ世界的大成功デアツテ此大成功ハ政府ノ特殊ナル保護ヲ干涉ヤ監督ヤヲ直接間接ニ受ケタコト決シテ之レナク全ク商工業者ノ獨立テ贏チ得タル所デアリマス。反之政府ノ特別干涉ヤ特別監督ノアル業務ヲ御覽ナサイ、ソレハ殆ンド是レ失敗ノ歴史デアリマス。政府ノ干涉ガ深クバ深イダケ、官僚ノ容喙ガ大ナレバ大ナルダケ、其失敗ハソレダケ深ク且ツ大ナルデアリマス。其活キタ證據ハ昭和二年ノ銀行騒動デアリマス。該騒動ハ端ヲ特殊銀行即チ政府ガ其役員ヲ任命シ、其業務ニ最モ立入りテ干涉シ殆ド政府ノ營業同様デアル所ノ諸銀行ニ發シ其他ノ普通銀行ハ其捲キ添ヘテ食フテ將棋倒レトナツタノデアリマス、普通銀行ノ重ナルモノハ一旦閉店シテモ再ビ自力テ開業スルコトノ出來ルモノガ多數ヲ占メテ居ル。特殊銀行ハ其亂脈實ニ御話シニナラヌ程ニテ、之ニ對スル國家ノ援助ガ其十分ノ一ニテモ普通銀行ニ加ハツタナラバ失敗閉店シタル普通銀行中特殊銀行ニ準ジテモ然ルベキ只一行ヲ除ク外ハ悉ク閉店セズニ濟ンダノデアリマス。實ニ此騒動ノ實物教訓ニ依リテ國民ハ官權萬能熱モ大分醒マタヤウデアリマスガ今ヲ去ル五十四年ノ昔ニ早ク既ニ此ハ

五十四年前  
目覺メタ立  
法者

中央集權ノ  
本家タル佛  
國ニ於テモ  
此ノ如キ過  
大ノ權力ヲ  
行政官ニ付  
與セズ

神經衰弱ニ  
權レル立法  
者

如キ迷ヒノ夢ノ全ク覺メタ立法者ガアツテ上述ノ如キ立派ナ株式取引所條例ヲ作成シタト云フコトハ實ニ驚異スベキ至リデハアリマセンカ。私ハ此等ノ點ニ於テ益々立法者ニ對スル禮讚ノ聲ヲ高メザルヲ得ナイノデアリマス。此序ニ申上ゲテ置キマス。法定市場制ノ本家本元タル佛國デモ決シテ此ノ如キ過大ノ權力ヲ政府ニ附與シテ居リマセン。仲買人ノ任命ハ大統領ノ親裁ニ依リテ爲サレマスガ、取引所ノ管理ハ全然取引所ノ自治ニ一任セラレ、政府ガ上述ノ如キ壓制的干涉ヲ加フルコトハ決シテアリマセン。明治二十六年法律第五號取引所法ノ立法者ハ此種ノ絶大ナル權力ヲ其手ニ收メテ置カナイト何ダカ不安ニ堪ヘラレナイヤウナ思フシタノデアリマセウガ是レハ全ク神經衰弱ハ致ス所デアリマス見ナサイ、世上無量無數ノ商工業ノ會社、何レモ株主總會及重役會ノ自治ニ放任セラレテ少シモ差支ナイデアリマセヌカ、然ルニ取引所ニ限り政府ノ認可ガナクレバ就任スルコトヲ得ナイ、政府ハ何時ニテモ意ニ任セテ之ヲ罷免スルコトガ出來ル、其上日常ノ事務萬端ハ銀行ノ取引カラ財産ノ保管方法マデ大小ニ論ナク一々政府ノ指圖ヲ要スル、又取引員ニ對シテ何時デモ除名ガ出來ル、取引所ニ對シテ何時デモ解散ガ出來ル、定款ヲ何時デモ變更シ、總會ノ決議ヤ取引所ノ處分ヲ

政府官僚ノ  
過度ナル干  
渉ハ取引所  
ノ發達ヲ阻  
害ス

普通法ニ依  
ル最高ノ監  
督權ヲ以テ

何時デモ取消スコトが出来ル。餘リ權力が重過ギ餘リ武器が多過ギ、實際少シモ使用デキヌハデアル。此ノ如キ使用デキヌ所ノ武器ヲ無暗ニ拵ヘ之ヲ倉庫ニ詰込シテ銷サセテ置ク、是レガ歴代藩閥官僚政府ハ所謂取引所政策ト云フモハデアリマシタ。私ハ窃ニ考ヘマス、取引所モ他ノ民間ノ産業ト一般、政府ハ過度ナル干渉ヨリ解放スルニアラザレバ其發展進歩ヲ望ムコトハ六ヶシイ。取引所ニ對シテ監督ノ大綱ヲ定メ最後ノ決定權ヲ政府ノ手ニ握ツテ居レバ日常ノ事務ヤ人事問題マデニ深く立入ツテ干渉スルニ及バナイ。一般産業政策ト同ジク普通法ニ依ル國家ノ最高監督ニ委ネテ然ルベシデアル。一例ヲ舉グレバ當該大臣ハ取引所ノ停止又ハ解散ノ命令權ヲ有セズトモ商法第四十八條ニ依リ會社ノ行爲ガ公ケノ秩序又ハ安寧ヲ害スルトキハ裁判所ハ職權又ハ檢事ノ請求ニヨリ解散ヲ命ズルコトが出来ルカ、是レデ十二分デアリマス。裁判所ヤ檢事マデガ取引所ト共謀スルト疑ヒ當該行政官ニ解散、解職、除名、停業及ビ定款ノ改正ヤ、決議並ニ處分ノ停止、禁止取消マデノ絶體無限ノ大權力ヲ握ラセテ置カネバ安心ガ出来ナカッタ所ノ明治二十六年ノ立法ハ何人ガ公平ニ見テモ是レハ確カニ被害妄想ニ惱マサレテ居ル神經衰弱ハ症候デアル。私ハ此立法者ガ能クモ地震ノ多イ東京デ生活シテ居ツタ

公ケノ行政  
機關ノ手ヨ  
リ公ケノ經  
濟機關ノ手

モノダト不思議ニ堪エラレナイデアリマス。

然レドモ此被害妄想此ノ脅迫觀念ハ決シテ無根デナイ、特別監督ノ方法ヲ確立セネバ實際不安心ニ堪エラレヌ事情アリト假定スレバ私ハ強ヒテ之ニ反對セズ、茲ニ安心ノ出来ルヤウニ一策ヲ今日ノ立法者ニ獻策シマス。即チ取引所ハ特別監督ハ之ヲ公ケノ行政機關ノ手ヨリ、公ケノ經濟機關ノ手ニ移スノデアル。圓滑、變通、機敏、果斷ヲ要スル取引所ニ對シ一々中央行政廳ノ指圖ヤ訓示ヲ仰ガシメルヨリモ寧ロ公ケノ經濟機關、例ヘバ商工會議所ハ監督ニ移シ、商工會議所ヲシテ常ニ各地產業界ノ變遷ニ順應スル監督方針ヲ立テシメ取引所ト程能ク妥協々調シテ以テ證券市場ニ於ケル公益保護ノ任務ニ當ラシムル方或ハ寧ロ策ノ得タルモノデナイカトモ考ヘマス。蓋シ商工會議所ハ法律ニ依リテ組織セラレタル公ケノ經濟機關デアツテ主トシテ商工業ニ關スル公益監視ノ任務ヲ有ツテ居ル、故ニ國家ガ取引所ニ對シテ一般法ニ依ル普通監督ハ外、尙ホ之ニ特別ハ監督ヲ加フルヲ必要トスルナラバ其任務ヲ商工會議所ニ委ヘルハ蓋シ最モ事物自然ハ狀態ニ合シテ居ルハデアリマス。同ジク是レ國家ノ機關デアアル、官吏トシテ俸給ヲ貰ツテ居ルカラ信頼スル、俸給ヲ貰ハズニ働クカラ信頼デキヌト云フ筈ハナイ。私ハ今日

此ノ如キ過  
大ナル干渉  
ヲ爲ス國ハ  
日本ノ外ニ  
一國モナシ

商工會議所  
ガ取引所監  
督ノ任ニ當  
ル實例

ノ商工會議所ト云フモノヲ決シテ完全ナモノトハ思フテ居ラナイ、否ナ私ハ其反  
對ニ現時仍ホ甚ダシク不完全デアアルコトヲ認メル。然レドモ政府ハ前年商工會議  
所ヲ改正シ、今ヤ此改正法律ニ基キ會議所ノ實質實力ヲ向上スルコトニ銳意努力  
シテ居ラレルヤウニ聞イテ居リマスカラ將來追々ト満足スベキ發達ヲ呈スルデア  
リマセウ。然ラバ則チ他年其満足スベキ發達ヲ遂ゲタル晨ニ於テ取引所ノ監督ヲ  
商工會議所ニ委ネル方針ヲ以テ今日ヨリ着々其準備ヲ進メテ行クコトモ決シテ早  
計デアアルマイト思ヒマス。現ニ商工會議所ヲシテ取引所監督ノ任ニ當ラシムル實  
例ハ吾々ハ獨逸ニ於テ之ヲ見、伊太利ニ於テ之ヲ見、瑞典及塞耳維(戰前)ニ於テ  
之ヲ見テ居ル。又佛國及白耳義國ニ於テモ商工會議所ヲシテ取引所監督ノ一部分  
ニ參與セシメル實例ヲ見テ居ル。日本ノ如ク行政官ニ取引所ヤ理事者ヤ、取引員  
ヲバ靴デ蟻ヲ踏潰スト同様ナル容易サヲ以テ之ヲ解散シ之ヲ解職シ之ヲ除名シ、  
其上定款ヤ決議ノ訂正變更カラ業務ヤ處分ノ禁止停止ニ至ルマデ意ニ任セテ命令  
シ且ツ執行スルコトガ出來ル、之レニ關シテ株主、重役、取引員ハ辯明又ハ意見  
ナドハ一切聞クニ及バヌト云フ徳川幕府以上ノ專斷權ヲ絕對無條件ニ付與シテ居  
ル國ハ、是レハ私ノ見聞狹隘ナルノ致ス所デアリマスガ、我日本ノ外ニハ只ダ一

佛國ノ取引  
所監督組織

例ヘバ地上  
ニ立テル喬  
木ノ如シ

革命政府ノ  
取引所廢止

仲買人ノ賠  
償權廢止ト  
持

國ニテモ存在シテ居ラヌヤウニ思ヒマス。

思フニ今日ノ比較法制ニ於テハ佛國ノ制度ガ最も大ナル監督權ヲ政府ニ與ヘテ  
居リマス。中央集權ノ本家本元タル佛國ノコトデスカラ取引所ノ監督ニ付テモ中  
央政府ニ最高最大ノ權利ヲ收メテ置カネバ承知出來ナイノデアリマス、ガ、ソレ  
デモ我日本ノ制度ニ對照スレバ其程度ハ殆ド比較ニナラヌホド輕少デアリマス。  
其概略ヲ申シマス

第一ニ取引所ヲ解散スル權利ヲ認メテ居リマセヌ。由來取引所ハ何レモ古キ歴史  
ヲ有シ經濟的發展ノ爲メ已ムニ已マレヌ必要ニヨリテ生レテ來タモノデアアル。例  
之、大キナ喬木デス、地上ニ見エル所ハ二三人が手ヲ繋ギ合セテラ抱圍スルコト  
ガ出來ルケレドモ其根ハ深クハ、地底ニ入り、廣クハ四方八方ニ擴ガリ、到底  
十人ヤ百人ハ力デ一朝一夕ニ引拔ケルモノデアリマセヌ。昔、第十八世紀ノ末造  
佛國大革命ノ成ルヤ、劈頭ニ於テ革命政府ハ取引所仲買人ノ獨占權ヲ廢止シ、何  
人デモ勝手次第ニ取引所ニ行キ賣買取引ヲ爲シ得ルヤウニ改正シ、以テ日頃ヨリ  
蛇蝎視セル取引所征伐ハ第一矢ヲ放チマシタ。但各仲買人ニハ其レノ權利料ヲ  
賠償シ、日本デ塩專賣ヤ煙草專賣ノ際、從來ノ塩、煙草ノ營業者ニ補償金ヲ下付

革命ノ眞最  
中ニモ私權  
ノ尊重ヲ忘  
レズ

シタト同様ニ國民ノ財産權ヲ尊重スルコトヲバ流血川ヲ成セル革命ノ眞最中ニモ  
忘レナカッタハハ流石權利ハ人格ヲ本位トスル法治國ダケハ眞價ガアリマス。日  
本デハ不幸ニシテ是レホドニ權利人格ヲ尊重スル決心ガアリマセン、是レ權利人  
格ヲ無視スル共產主義ナドノ危險思想ガ案外容易ク我邦ニ蔓延スル所以デアリマ  
ス、歐洲ノ實例ニ鑑ミテモ此等ノ危險思想ハ英獨佛ニハ猖獗ヲ逞スルコトガ出來  
ズシテ瞬ク間ニ半開國ノ露西亞ヲ席捲シタル所以ハ一ニ是レ權利人格ヲ尊重スル  
念慮ノ有無ニ因ルノデス。帝國憲法ニ日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシト  
明々ニ書イテアリマス、何卒今後速ニ此明文ノ精神ヲ實際ニ徹底サセタイデアリ  
マセンカ。餘談ハ暫ク措キ、右仲買人ノ特權廢止ハ千七百九十一年三月デアツタ  
ガ其レヨリ四年後、千七百九十三年六月ニ至リ革命政府ハ百尺ノ竿頭更ニ一步ヲ  
進メテ斷然取引所ノ閉鎖ヲ命ジ、茲ニ初メテ取引所征伐ノ全目的ヲ貫徹シマシタ。  
意見ノ是非ハ別問題トシテ私ハ革命政府ガ凛然タル勇氣ヲ以テ其所信ニ向ツテ奮  
進シタル男ヲシテ行動ニハ滿腔ノ敬意ヲ表シマス。俟其後ノ經過如何ト云フニ革  
命政府ハ上記ノ如ク一旦思ヒ切ツテ取引所ヲ廢止シタケレドモ自然ノ必要ニ出デ  
タルモノハ革命政府ノ威力ヲ以テスルモ之ヲ抑壓スルコトハ不可能デアリマシタ

青天白日ノ  
下ニ公正ナ  
相場ヲ立テ  
ル代リニ暗  
黒ノ程ニ暗  
味ナル相場  
ヲ立テル  
革命政府兜  
ヲ脱グ  
一七九六年  
雪月取引所  
再開  
ぎよち一  
デモ經濟必  
要機關ノ首  
ハ切レヌ

青天白日ノ下ニ公正ナル相場ヲ立テル代リニ此處デモ彼處デモ到ル處暗黒ハ  
裡ニ秘密ハ取引ニ依レル曖昧ナル相場ヲ盛ニ立テル、公衆ハ途ニ迷ツテ適從スル所  
ヲ知ラナイ、公債ハ望手ガナクナル、證券ノ取引ハ殆ド杜絶スル。是レガ取引所  
閉鎖ハ唯一ノ結果デアリマシタ。於是乎革命政府モ已ムナク遂ニ兜ヲ脱ギ其翌千  
七百九十六年即チ共和四年雪月再ビ取引所ヲ開キ公定相場ヲ立テサスコトニナリ  
マシタ。實ニぎよち一ぬト云フ斷頭機ヲ發明シテ日々數百人ノ首ヲ刎ネタ所ノ猛  
烈怖ルベキ革命政府モ國民生活ノ必要ト經濟界ノ大勢トヨリ起リ來レル取引所ハ  
首グケハ遂ニ刎ネルコトガ出來ナカッタハデアリマス。前轍此ノ如シ、是レ佛國  
ノ法令ニ於テ決シテ取引所解散ノ權利ヲ行政官ニ與ヘテ居ラヌ所以デアル。何タ  
ル猪武者ゾ、憲法施行後三年ヲ經タル明治二十六年ニ至リ破天荒ナル我儘至極ノ  
取引所法ヲ作り俺ハ斯ク認定スルゾト行政官ガ暗カラ棒ニ言ヒ出セバ其レ日  
本國中誰一人モ不服ハ申サレナイ、東京大阪其他全國ノ取引所ヲ一齊ニ解散シ、  
理事者ヲ全部解職シ、取引員ヲ全部除名シ、株主總會ノ決議ヲ全部取消シ、取引  
所ノ處分ヲ全部抹殺スルコトガ出來ルノデアル。實ニ革命政府ノ斷頭機ヨリモ一  
層怖ロシイ人斬庖丁デハアリマセンカ。勿論實際ニ於テハ此人斬庖丁ヲ振廻ハシ

狂氣力ト萃  
原將軍然タ  
ル大權力

技巧ハ進ミ  
人物ハ下落ス

取引所ヲ解  
散シテモ可  
ナル場合

解散ハ法律  
勅令ニ依ラ  
ズ

テ取引所ノ首ヲ刎ネタ人物ハ幸ニ一人モナイノデアリマスガ、元來此ノ如キ大權  
カヲ握リ此人斬庖下ヲ枕許ニ置カネバ枕ヲ高クシテ眠ラレヌト云フ一事ニ依リ既  
ニ明治二十六年後ハ立法者ガ極度ノ神經衰弱ニ罹ツテ居ツタコトガ想像セラレマ  
ス。法律ヲ教授スル學校ハ段々殖エル、法律ヲ修メテ官吏トナル者ハ追々増シテ  
來ル、然レドモ明治大正ノ立法ハ時ト共ニ段々劣惡ニナル。這ハ是レ立法者ノ技  
巧ハ進ンデ來ルケレドモ其識見ガ却テ下落シ天下國家ヲ以テ念ト爲シ日本產業ノ  
隆昌ヲ唯一ノ目標トシテ二念ナク勇往邁進スルト云フ至純至眞ノ心ヲ缺キ、大切  
ナル立法事業ヲ全部功利化シ職業化スルノ致ス所デアリマス。俯仰五十四年、今  
昔ハ法律ヲ對照シテ私ハ轉々慨嘆ニ堪エナイモハガアリマス。  
然ラバ取引所ハ如何ニシテモ解散シテハナラヌカト云フニソレハ決シテ絶対的  
ハモノデナイ。取引所ノ存在ガ國家ノ利益ト相容レザルトキハ已ムナク之ヲ解散  
セシメネバナラヌ、國家ノ利益ト相容レナイ場合ニハ人ノ生命、財産デモ之ヲ奪  
フデハナイカ。故ニ必要ノ場合ニ解散スルハ可ナリ、而カモ其解散ハ司法裁判ニ  
依リテ之ヲ爲スノ外、尙ホ特別ノ方法ニ依ルコトヲ要スルモノトスレバ私ハ之ヲ  
法律又ハ勅令ニ譲リ慎重ナル立法手續ニ依リテ之ヲ爲スベク單純ナル行政官ハ裁

量處分ハミニ依リ之ヲ爲スコトヲ止メネバナラヌト考ヘマス。此ノ如クスレバ一  
面ニハ公共ノ利益安寧ヲ完全ニ擁護シ得ルト同時ニ他ノ一面ニハ經濟界ノ重要機  
關ヲ十分ニ尊重シ、社會全般ノ大利害問題ヲパー二官僚ノ私見ニ依リテ輕々ニ取  
扱フノ弊害ヲ矯メルコトガ出來マス。試ニ想像シテ御覽ナサイ、今若シ東京大阪  
其他大都市ノ株式取引所ガ當該官憲ノ意思ニ逆行スル措置ヲ取ツタ爲メ公益ヲ害  
スルモノトシテ一齊ニ解散命令ヲ受ケルトキハ如何デアリマセウカ。寢耳ニ水ノ  
證券界ハ波瀾萬丈ノ大恐慌ヲ來シテ暴落ニ暴落ヲ重ネル、銀行ハ手持證券及擔保  
證券ノ値下リニ依リテ取付ニ逢ヒ門前ニハ引出人が殺到スル、債務者ハ何レモ債  
權者ヨリ嚴シイ請求ヲ受ケテ閉店スル、有價證券ノ融通ハ全ク杜絶スル、全國恰  
モ火ノ消エタル如ク日本ノ經濟的生活ハ殆ド終熄絶滅スルニ至ルデアリマセウ。  
此ノ如キ大利害アリテ國家ノ存亡ニモ關スル重要問題ヲバ給仕ヤ小使ノ任命ト同  
様ニ取扱ヒ、行政官ノ一存ノミデ何時タリトモ勝手氣儘ニ斷行スルコトヲ許可ス  
ル現行法ハ要スルニ辯護ハ餘地ヲ見出スコトハ出來ナイ不當不穩ハ法律デアリマ  
ス。固ヨリ實際ニ於テ此ノ如キ亂暴ヲスル行政官ハ過去ニ於テ明治三十五年ニ只  
一人アリシニ止マリ其他ニハ曾テ存在シナイ、又將來恐ラクハ斷ジテ有ルマジキ

所デアル。ケレドモ、ソナ空頼ミヲシテ不當不穩ノ法律ヲ存續セシメテモ宜シト云フコトハ法治國トシテハ是認スルコトノ出來ナイ亂暴至極ノ議論デアリマス此故ニ私ハ當局官吏ニ深ク信頼スルト共ニ更ニ一層深ク法律ノ規定ニ信頼シタイハデアリマス、從テ信頼スベキ法律ノ制定ヲ切望シテ已マヌ次第デアリマス。

佛國ニハ取  
引所解散ノ  
實例ナシ  
(大革命後)

佛國ニテハ如何ニシテ居ルカト云フニ、第一、取引所ノ解散ハ行政官ノ權力ニ屬シナイ、這ハ法令ヲ以テ直接ニ決定スル問題トナツテ居ルガ大革命時代ヲ除ク外、法令ガ直接ニ此權カヲ使用シタル例モ未ダ會テ之レナイハデアリマス。第二ニ取引員ノ除名ハ取引員ニ懲罰事犯アリタルトキ取引員總會ノ決議ニ依リ、又ハ當該大臣ノ諮問ニ對スル取引員總會ノ答申ニ依リ大統領ノ政令即チ勅令ニ依リ之ヲ命ズルハデアリマス。

以上ノ通りデアルカラ取引所監督權ニ關スル明治七年太政官第七號布告ハ申分ナイ立派ナモノデアリマス、今日ノ規定ハ速ニ之ヲ改メテ五十年前ニ還元セネバナラスト思ヒマス。

(D)社員ト取  
引所トノ關  
係

其次ニ(D)社員即チ會員ト取引所トノ關係ニ付テ之ヲ見ルニ右株式取引條例ハ第四條 發起人等ハ新聞紙ヲ以テ公達シ右ノ案内ニ應シタル株主等ノ集會ヲ爲シ投票法

創立總會ニ  
ハ株主ヨリ  
肝煎ヲ選舉  
ス

ヲ以テ三十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ差向キ五人以上ヲ選ミテ肝煎トナスヘシ...

手本ハ倫敦  
所ノ株式取引

右ノ如ク第一回ノ總會ハ株式會社ノ成立シタル當初ニシテ即チ今日ノ創立總會ニ該リ未ダ會員即チ社員ト云フモノガナイカラ第一回ニ限リ株主中ノヨリ肝煎ヲ選舉セシメマス。第二回以後ハ既ニ社員ガ出來上ツテ居ルカラ肝煎ハ半數ヲ株主ヨリ他ハ半數ヲ社員ヨリ選舉スルコトニナツテ居リマス。此制度タルヤ蓋シ取引所管理ノ善惡ハ財政上ニ付テ直接ニ株主ヲ利害シ、業務上ニ於テ直接ニ社員ヲ利害ス、故ニ利害關係ヲ等分セル株主ト社員トノ中カラ半數ヅ、肝煎ヲ選出セシメ共同シテ取引所ノ管理ニ當ラシムルハガ至當デアルト云フ公平ナ見地カラ來タモノト思ハレマス。其手本トシテハ倫敦取引所ニハ財産管理及會計事務ニ付テハ株主ヨリ選出セル委員之ヲ管理シ、純然タル取引所ノ機能ニ屬スル事務ニ付テハ會員ヨリ選出セル委員之ヲ管理スル制度ガ行ハレテ居ル、此制度ノ精神ヲ取り來ツテ、倫敦取引所ニテハ事務ヲ等分シテ之ヲ株主委員ト會員委員トニ分屬セシメ居ルヲ、此條例ニテハ人員ヲ双方ニ等分シ共同シ

テ全事務ニ從事セシメタノデアリマス。尙ホ佛國ヲ初メトシ歐洲各國ニテハ大概會員又ハ仲買人自ラ理事者ヲ互選シテ取引所一切ノ事務ヲ管理セシメテ居リマスカラ此ノ普遍的精神ヲ條例中ニ加味セシメタル意味モアリマセウ。

此制度ハ未ダ實用ヲ見ルニ至ラザル内、明治十一年太政官第八號布告株式取引所條例ニ依リ改正セラレ、社員ヨリ肝煎ノ半數ヲ選出スルコトヲ止メ全部株主中ヨリ選舉スルコトニ改メラレマシタ。改正法ニハ

第十九條 取引所ノ肝煎ハ少クトモ五名以上ト定メ株主ノ總會ニ於テ其取引所ノ規定ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ選任シ……

トアリマス。此改正ノ理由ハ社員即チ會員ハ自己ハ計算ニ於テ賣買スルコトモ出來ル又公衆ノ注文ヲ受ケ他人ハ計算ニ於テ賣買スルコトモ出來ル。從テ自己ノ計算ニ於テ賣買シ、取引所ノ處置ニ依リ直接ニ賣買上ノ大利害ヲ感ズル場合ニ方リ其人ヲ取引所ノ統制事務ニ參加セシムルトキハ自己ハ利害ハ爲メニ偏頗ノ處置ヲ爲スハ恐れガアルト云フニ在リマス。是レハ尤モデアル。例之、取引所ニ於テ久原礦業株ヲ甲社員ガ買占メテ居ル、取引所ハ是迄一株ニ付五圓ノ證據金ヲ徵收シテ居タガ追々相場ガ荒クナリ高下ノ幅ガ廣クナツタカラ五圓デハ心元ナイ、貳拾圓ニ増加シヤウト云フコトニナ

ツタ。左様ニナルト久原株ヲ買占メテ居ツタ甲社員ハ是迄既ニ一萬株ヲ買立テ之ニ對シ五萬圓ノ證據金ヲ入レテ居ツタノガ忽チ證據金ノ引上ゲニヨリ更ニ拾五萬圓ヲ追納セバナラス。加之、今後九萬株ヲ買添ヘルナラバ人氣沸騰シテ相場大ニ向上スベシトノ期待ノ下ニ之ニ對シテ一株五圓ノ割ニテ四拾五萬圓用意シテ居ツタモノガ一株貳拾圓トナレバ百八拾萬圓ヲ要シ、準備金百參拾五萬圓不足トナリ、既ニ買立アル一萬株ニ對スル追納金拾五萬圓ト合算シテ合計百五拾萬圓ハ不足トナル、之レガ爲メニ折角企テタル買占ハ土崩瓦解シ半途ニシテ脆クモ斃レネバナラス。此困難ノ位置ニ立テル甲社員若シ肝煎デアルナラバ公平ハ見地ニ立脚シテ市場ハ秩序ト平穩トハ爲メニ自己ハ失脚ヲ犠牲トシテ證據金引上ゲニ賛成スルカ又ハ生キルガ爲メニ已ムナク證據金引上ニ反對スルカ、其結果ハ問ハズシテ分明デアリマス。此故ニ舊法ニ於テモ肝煎ノ半數ハ株主ヨリ選出セシメ、以テ自己ノ利害ニ依リテ行動スル社員側選出ノ肝煎ヲ牽制セシメタノデアリマス。然モ此牽制ダケデハ不安心デアアル、寧ロ社員側ノ肝煎ヲ撤廢セシメ公平ニシテ利害關係ナキ株主側ノ肝煎ハミニスルガ宜シト云フコトハ是レ洵ニ至當ナ見解デアツテ恐クハ何人モ此改正ヲ非難スル者ハアルマイト思ハレマス。此改正ハ其後明治二十年勅令第十一號取引所條例ニ依リ更ニ著シキ改正ヲ受ケマシ

タ。其改正ノ概要ヲ云ヘバ取引所ハ總テ會員組織トシ而シテ其取引ハ會員及仲買人ニ依リテ爲サレル。會員ハ自己ハ計算ハミニテ取引シ、他人ノ委託ヲ受クルコトヲ得ズ、又タ仲買人ハ他人ノ注文ヲ受ケ他人ハ計算ハミニ於テ取引シ自己ノ計算ニ於テ取引スルコトヲ得ズトシ、全ク倫敦取引所ノ「じよつばー」ト「ぶろー」トノ組織ニ倣ツタノデアリマス。而シテ取引所ノ役員ハ理事長、理事、常置委員トモ悉ク會員中ヨリ選出シマス。但シ役員中、執行機關タル理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ズト定メ以テ前述ハヤウナ自己ハ利害ハ爲メニ偏頗ノ措置ヲ爲スハ弊害ヲ豫防シテ居リマス。右明治二十年勅令第十一號ノ條例ハ從來ノ株式組織取引所ニ營業免許期限(五年ヲ例トス)アルニ乗ジ其期限至ラバ繼續ヲ許サズ其儘廢止ニ歸セシメ之ト同時ニ會員組織取引所ニ新ナル免許ヲ與ヘ茲ニ新舊取引所ヲ無償ニテ交代セシメントスル點ニ大ナル缺陷ヲ存シテ居リマシタ。成程、株式組織取引所ニ營業免許ノ期限ハアルケレドモソレハ畢竟形式的ノモノデアツテ三年ヤ五年デ營業繼續ガ出來ヌモノデアツタナレバ何人モ莫大ナ投資ヲシテ免許ヲ得ルモノハアリマセン。三年五年ト云フ期限ハアツテモ其満期ニ至ラバ更ニ繼續シテ無窮ニ存續セシムルト云フ諒解ガ實際相互ハ間ニ存シテ居リ、期限ハ全ク空虚ナル例文ニ過ナイコトハ明瞭デアリマス。現今デモ

取引所ノ免許ニハ矢張十年ト云フ年限ガ付イテ居ル。若シ十年經テバ繼續出來ヌト云フコトデアルナレバ取引所トシテハ免許ノ日ヨリ十年以上ニ渉ル計畫ハ決シテ之ヲ爲スコトガ出來ナイ筈デアリマス。取引員ノスル賣買ハ長期ハ二ヶ月、短期ハ一ヶ月デ決濟セラレマスガ取引所トシテハ施設ハ有形ニモ無形ニモ常ニ永久的ハモハデ頭ハ上ニ期限ト云フ石蓋ヲ載セラレテ居テハ決シテ公ケハ機關タル重大ハ義務ヲ盡セル譯ハモハデアリマセン。眼前ノ一例ヲ取ツテ之ヲ言ヘバ今春東京デハ參百萬圓ノ鉅資ヲ投ジテ宏麗無比ノ大市場ヲ新築シ今又更ニ數百萬圓ヲ投ジテ事務所トびるぢんぐトヲ新築シツ、アリマス。大阪ニ於テモ約六百萬圓ノ豫算ヲ以テ北濱街頭ニ市場及事務所ヲ兼ネタル大びるぢんぐヲ建築セントシテ居リマス。是レ皆ナ百年千年ノ長計ヲ爲スモノデマツテ即チ社會全般ガ營業免許ハ期限ハ形式的例文的ハモハデアアル、取引所ハ將來國家ハ必要上カラ法令ニ依リテ廢止セラレザル限り當然無限ニ存續スルモノデアルト吾モ人モ悉ク承認シテ居ル明證デアリマス。若シ此免許期限ガ實質的ノモノデアツテ其満了ノ時ハ更ニ審議ニ依リテ新出願ノ場合ト同様、白紙ニテ許否ヲ決セラル、モノトセバ何人モ斯ノ如キ不安且ツ危險ノ業務ニ對シ莫大ノ資本ヲ投ジテ市場ノ新築ヲ爲スモノハアリマセン。故ニ株式組織取引所ハ現實ニ無期限ノ營業權ヲ有シテ居ル、



此營業權ヲ剝奪シテ更ニ之ヲ會員組織ハ新取引所ニ與フル爲ニハ國家ハ相當補償ハ方  
 法ヲ講ゼホバナリマセン。固ヨリ其時代ハ明治二十年ニシテ即チ憲法發布前デアルケ  
 レドモ苟モ私有財産ヲ認メ國家ノ力ニテ之ヲ保護スル制度ノ確立スル以上ハ人ノ財産  
 ヲ無償ニテ取上ゲルト云フコトハ徳川壓制政府ハ下ニ在ツテモ決シテ敢テシナカッタ  
 所ハ暴政デアリマス。然ルニ營業免許期限ト云フ形式的ノ飾リ文句ニ誤ラレ滿期ノ際  
 ニ繼續ヲ拒ミ之ヲ他ノ新取引所ニ許可スルモ差支ナシトノ幼稚ナル理窟ニ捉ハレタル  
 ハ是レ實ニ賢明ナル立法者ハ千慮ハ一失デアツテ之レガ爲メ明治二十年勅令第十一號  
 取引所條例ハ全國取引所ガ其生存權ト財産權ヲ保持スル爲メノ熱烈ナル眞劍味ノ反抗  
 ニ依リテ遂ニ脆クモ半途デ斃レテ了フヤウニナリマシタ。ケレドモ此一事ノ缺陷ヲ除  
 キテハ該條例ハ立法ハ主義一貫シ系統整然トシテ其大體ニ於テハ殆ド非難スベキ所ナ  
 キ立派ナモノデアリマス。若シ今後日本ヲ會員組織ノ取引所ニテ統一セネバナラヌ時  
 代ガ到着スルモノト假定セバ其時コソ此明治二十年勅令第十一號取引所條例ノ精神ヲ  
 復活セシメテ其制度ハ下ニ現行會員組織ノ制度ヲ更新セシメホバナラヌト思ヒマス。  
 私ハ株式組織ト會員組織ト何レガ可ナリヤノ問題ニ付テ固有ノ意見ヲ有ツテ居リマス  
 ガ若シ假リニ會員組織可ナリト想像シテ論ズルナラバ私ハ明治二十年ハ條例外ニ參

考トスベキ法令ハ日本ニ存在シナイト確信シマス。此後ノ法律トシテハ明治二十六年  
 ノ取引所法ガ發布セラレ、更ニ大正十一年ニ至ル迄數次ノ小改正ガアリマシタガ何レ  
 モ見ルニ堪エナイ蕪雜ナモノデアリマス。現行法ニ於ケル會員組織ノ不完全極マルコ  
 トニ付テハ私ハ曾テ「現行會員組織制ノ基本則ヲ難ズ」ト題シテ其梗概ヲ述ベテ置キマ  
 シタカラ就テ御一覽ヲ願ヒ今日ハ之ヲ省略スルコトニ致シマス。

今ヨリ五十四年前ノ日本最初ノ株式取引所立法ハ大要右ノ通りデアリマス。其他詳  
 細ノ事項及其以後ニ於ケル立法ノ研究ハ何レモ他日適當ノ機會ニ譲リマス。終ニ臨ミ  
 特ニ一言シマス。古キ立法ハ一見無味乾燥デ何等ノ價值モナキヤウデアルケレドモ仔  
 細ニ之ヲ咀嚼スレバ滋味津々トシテ盡キザルモノガアリマス。ソレハ唯ダ單ニ好奇心  
 ヲ満足セシメルト云フ骨董癖ニ出ヅルノミデハナク又タ以テ現行法ノ由來ト精神トヲ  
 知リテ其得失ヲ正確ニ判斷スベキ有力ナル材料トナリ、且將來ノ改善向上ヲ計畫スル  
 ニ付テ多大ノ參考トナルノデアリマス。私ハ賢明ナル我大阪株式取引所ノ同志諸君中  
 ニ吾邦ノ取引所法ヲ比較的ト同時ニ沿革的ニ研究セラル、方々ガ輩出セラレ其有力  
 ナル調査ノ結果ヲ續々發表セラル、ニ至ランコトヲ首ヲ長クシテ經濟界及法律界ノ爲  
 メニ待ツテ居ル次第デアリマス。

318  
786

昭和三年十月十五日印  
昭和三年十月二十日發行

非賣品

大阪市東區北濱二丁目一番地  
株式會社大阪株式取引所

編輯兼發行者 塩川藤吉

大阪市西區土佐堀通四丁目五番地

印刷所 株式會社三有社

終